

金田城(国特別史跡, 続百名城)(長崎県対馬市美津島町黒瀬城山)

金田城(かねだじょう、かねたのき)は、飛鳥時代に対馬国に築かれた古代山城(朝鮮式山城)。所在地は長崎県対馬市美津島町黒瀬城山。国の特別史跡。

対馬の中部にある浅茅湾の南岸に突き出た標高 275 メートルの城山(じょうやま)に位置する。山頂部に石塁、山の周囲を取り巻くように石垣が築かれている。南東麓は比較的緩やかな斜面で、海に通じる三本の谷(北から順に「一の城戸」「二の城戸」「三の城戸」)には城壁が残っており、さらに水門と城門が設けられていたと考えられている。また、「二の城戸」と「三の城戸」の中間に位置する「ピングシ山」周辺から複数の建物跡が検出されており、防人宿舎など中枢機能があったと考えられている。遺構がよく遺っていたので、1962 年(昭和 37 年)に長崎県史跡として指定されている。

663 年の白村江の戦いに敗れた倭国は唐・新羅に対する防衛のため、西日本各地に防衛施設を築いた。その一環として、667 年に対朝鮮半島防衛の最前線として築かれた。

Wikipedia による

南門・東南角石塁



二ノ城戸



一ノ城戸

